「YAESE結フェスタ」は平成21年より4年ごとに沖縄県八重瀬町で行われているお祭りで、新型コロナウイルスの影響もあり昨年は中止に。今年は、厳重なコロナ対策のもと5年ぶりの開催となりました。

結ぶ

「YAESE結フェスタ」で手結盆踊りが文化継承の思いを結ぶ

待ちに待った交流

令和4年10月29日(土)から31日(月)にかけて「手結盆踊り保存会」の踊り子14人、歌い手6人、計20人が、香南市長と共に、姉妹都市の沖縄県八重瀬町を訪問しました。

八重瀬町で開催されている「YAESE結フェスタ」での文化交流を目的として招待されたものです。

▲若者たちが踊る「エイサー」

今回参加した「手結盆踊り保存会」は高知県保護無形民俗文化財でもある「手結盆踊り」を継承する団体です。

いつかは沖縄への希望が今回ようやく叶い、23歳から79歳までの幅広い年代で参加しました。

Interview

手結盆踊りで、舞台の上で太刀を持って踊っている小松寛卓(ひろたか)さん(夜須町千切出身)に今回の交流についてお話を伺いました。

■盆踊りに参加したきっかけ

幼い頃に姉が盆踊りに参加しており、私も付いて自然と踊るようになりました。

■訪問した感想は?

貴重な機会に参加することができて大変光栄でした。本当にありがとうございました。八重瀬町の皆さんはとても優しく、温かく迎え入れてくれました。お祭りには、老若男女大勢の方が参加していて、地域と文化が強く結びついている印象を受けました。

■フェスティバルを体験して

踊りを披露した際、熱心に観てくださって、会場から拍手をいただき嬉しかったです。

▲小松さん(31才)

沖縄の雰囲気を肌で感じながら、観客の皆さんの近くで踊れたことはとても新鮮な経験でした。また、エイサー等の手結盆踊りとは違った力強い足さばきや滑らかな手つきを間近で見ることができて、良い刺激を受けました。祭りの最後に参加者全員で踊ったカチャーシーでは、沖縄文化を直接体験できて楽しかったです。

■交流への思い

今回のフェスティバルに参加して、自分たちの踊りだけではなく、他の文化も大切にしていきたいと思う気持ちが一層強くなりました。こうした交流が続いて、地域文化を大切にする人が増えるきっかけになればと思います。そして、先人たちが守ってきた伝統を後世へ継いでいかなければならないと思いました。

▲会場がひとつになって

手結盆踊りヒストリー

手結盆踊りは約400年の歴史があり、江戸時代以前には「手結踊り」として踊られていたものです。山内一豊が土佐の国守となった1600年頃には、長宗我部の残党が一揆を起こさぬよう、民衆が集まる踊りや相撲などの行事が禁止されました。

しかし、次第に人々の生活に希望と潤いを持たす政策が望まれる時代となったことで、藩は手結港の工事で亡くなった人の弔いの為という理由を付け、年に一度だけ踊ることを許し、現在の「手結盆踊り」となったそうです。

(出典:夜須町史下巻)

Interview

フェスティバル出演者、新垣成世さん(八重瀬町出身)にお話を伺いました。

■手結盆踊りに魅せられて

沖縄の盆踊りといえばエイサーですが、手結の盆踊りは想像していたものとは違っていました。踊り手さんのしなやかな所作や歌い手さんの厳かでどこか懐かしい唄に、出番を忘れて見入ってしまいました。心地よい素朴さの中に地域の人の手から手へ、長い時間を経ても変わらずに受け継がれてきたものなのだと感じました。あと、歌い手さんの芯のある歌声にとても惹かれました。

■香南市の印象は

9年前(平成25年)に、当時八重瀬町からの交流職員の屋嘉比さんに声をかけてもらい、弁天座で「おきなわの唄と踊り」公演に出演しました。その日が20歳の誕生日ということもあり、公演後の打ち上げで大勢の方に祝っていただきました。とても温かく迎え入れてくださったことを今でも鮮明に覚えています。それと食べ物が美味しかった!特に海のものが素晴らしかったです。

これからも継続して互いの文化・芸能を通して交流を深めていきましょう。また呼んでください!笑

▲フェスティバル当日は、会場入り口で市の観光パンフ等を八重瀬町職員と一緒に配りました

▲沖縄民謡の唄者として国内外で活躍する新垣さん

▲手結盆踊りの踊り子と

▲結婚する前から踊り続けている野島夫妻

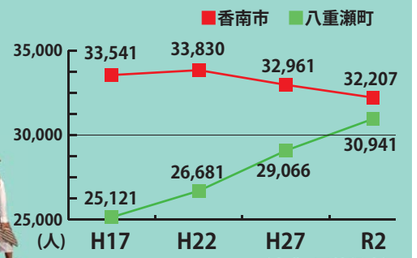
▲18,000人を超える高知県戦没者の慰霊碑「土佐之塔」を参拝して

◀(右)新垣安弘八重瀬町長と濱田市長の対談ではスポーツ交流に意気投合!

人口増加のまち八重瀬町

平成18年1月1日、東風平町(こちんだちょう)と具志頭村(ぐしかみそん)が合併し「八重瀬町」として誕生しました。合併前から実施していた区画整理事業による住宅や商業施設等の開発が進み、那覇市から30分圏内ということもあり、ベッドタウンとして人口が右肩上がりに増加しています。

転入転出の社会動態はH25年からは増に。自然動態は、毎年平均380人ほどの安定した出生数に支えられ増となっています。昼間人口は、香南市と同じく約85%で、町外に出る方が多くなっています。



(出典:国勢調査)